

より豊かな地域社会づくりに貢献 明治安田生命保険相互会社が寄付

10月13日、明治安田生命保険相互会社が市に72万6千円を寄付しました。同社がより豊かな地域社会づくりに貢献しようと展開している「私の地元応援募金」として寄付したもので、昨年引き続き2度目になります。いただいた寄付金は、新型コロナウイルス対策や子育て支援、介護認知症予防対策などに活用されます。



小林営業所の下田太平所長は、「地元がいつまでも活気あふれる場所であることを願って、今後もより一層の支援を継続していきたい」と話していました

シルバー人材センターが奉仕活動実施

10月16日、小林市シルバー人材センターが10月の「事業普及啓発月間」にあわせた活動として、地域への奉仕活動を行いました。当日は、会員262人が21班に分かれて活動に参加。小中学校の通学路のゴミ拾いなどの美化作業に取り組みました。



国文祭・芸文祭みやざき2020

7月～10月にかけて開催された同イベントのひとつとして、10月17日「茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶inこばやし」が文化会館で開催。当日は、表千家同門会宮崎県支部小林地区の会員が、お茶席を提供し、160人が来場しました。



寄贈は平成28年からいただいております。今年で6回目。いただいたランドセルは、さまざまな理由で生活が困難な家庭の新小学生へプレゼントされます

小林の未来を担う子どもたちへ 坂口建設(株)と(株)三共がランドセル寄贈

10月13日、坂口建設株式会社(松岡重孝代表取締役)と株式会社三共(外村公明代表取締役)が市にランドセル4つを寄贈しました。寄贈式で坂口建設株式会社の松岡代表は、「事業の収益金の一部を、小林の未来を担う子どもたちのために活用して欲しいと思い寄贈している。今後も長く寄贈を続けていきたい」と話していました。

働く意義や楽しさ学ぶ講演会を開催

10月13日、小林高校で1年生を対象に、勤労観・職業観を学ぶ講演会が開かれました。講演では、トヨタカローラ宮崎(株)の講師が自動車業界の未来や働く意義について講演。講演後は、立ち乗り電動三輪車や駐車支援システムなどの体験会も行われました。



鳥インフルエンザを想定した防疫演習

10月14日、高病原性鳥インフルエンザの発生時期を前に市や県、関係機関・団体が発生を想定した防疫演習を行いました。演習では発生農場での埋却地の確認や周辺道路の規制、消毒ポイント設置などを、各機関の役割を確認しながら実際に行いました。



12競技のスポーツを楽しく体験 五輪金メダリストの特別教室も開催

10月～11月にかけて、「キッズチャレンジオリンピックinこばやし」が開催されています。幼児から小学3年生まで47人が参加し、12競技のスポーツを体験。10月9日は、アテネオリンピック体操男子団体金メダリストの中野大輔さんによる特別教室が開催され、参加者は世界レベルの技術を体感しながら、楽しく体操を体験しました。



参加者の帯田隼人くんは「飛び跳ねるマットを使った側転の練習が楽しかった。もっと上手にできるように、家でも練習したい」と感想を話しました

地域の魅力を再確認するきっかけに

9月～10月にかけて、地域の人に地域の魅力を再発見してもらうことを目的に市と(株)宮崎観光ホテルが連携したフェアが開催されました。期間中は同ホテル内レストランで小林産の農産品が全面的に利用されるなど、館内随所に「こばやし」があふれていました。



はつらつプレーで親睦を深める

10月12日、高齢者が生きがいを持って充実した日々を送るための生きがい学級がグラウンドゴルフ大会を開催しました。小林・須木・野尻の3地区学級生の親睦を深めることが目的で、会場となった八幡原市民総合センターには笑い声が響いていました。



大學さんは、「平和を壊したのが人ならば、平和をつくるのも人。毎日を大切に、次の世代へと平和への想いをつないでいきたい」と訴えました

遺族や関係者ら約200人が参列 戦没者追悼式を忠霊塔で開催

10月1日、戦没者追悼式(小林地区)が緑ヶ丘公園忠霊塔前広場で開催されました。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席数を減らすなど規模を縮小して開催。式典では、南小の齋田優月さん(写真㊤)と細野中学校の齋田優月さん(写真㊦)による「平和への想い」をテーマにした作文の朗読も行われました。

認知症への理解促進のための活動

9月21日の世界アルツハイマーデーにあわせて、認知症への理解促進を目的としたPR活動が行われました。市役所本庁舎でのライトアップのほか、各庁舎では展示やチラシの配布コーナーが設けられ、来庁者に認知症への取り組みをPRしました。



本人や家族の権利を守るために

9月21日、成年後見制度の利用を支援する西諸2市1町合同の支援組織「中核機関にしもろ地区権利擁護推進センターつなご」の開所式が開催されました。同機関は成年後見制度が必要な人に、必要な支援が行き届くよう支援する地域連携の中心的役割を担います。



にっこばまちづくり協議会、野尻1区が「コミュニティ助成事業」で備品を整備

一般財団法人 自治総合センターの宝くじ社会貢献広報事業「コミュニティ助成事業」の助成を受け、にっこばまちづくり協議会が英哲型桶胴太鼓と発電機を、野尻1区が発電機と防災機材倉庫を整備しました。

これにより、地域コミュニティ活動の発展や活性化、地域の防災力や防災意識の向上を図るための環境が整いました。

同助成金は宝くじの受託事業収入を財源としており、全国で社会のために役立てられています。



にっこばまちづくり協議会
(一般コミュニティ助成事業)



野尻1区
(地域防災組織育成助成事業)

PickUP

秋の行楽シーズンぴったり！テイクアウト

市内でもテイクアウト（持ち帰り）メニューを始める飲食店が増えています。自宅や秋の行楽のおともに、テイクアウトを利用してみませんか？



◆テイクアウトの流れ（注文方法）

- ①電話またはネットで注文
- ②指定の時間に店に商品を取りに行く
- ③お店の味を自宅や行楽先で楽しむ



※ネットでの注文は一部の飲食店のみ実施。注文方法など詳しくは各飲食店に問い合わせください。

◆小林のテイクアウト情報

小林まちづくり株式会社のホームページではテイクアウトできる飲食店 58 店舗を紹介しています。また、サイトに掲載するテイクアウト飲食店も随時募集中です。詳しくは問い合わせください。

●問=小林まちづくり株式会社 Tel 27 - 3280



小林まちづくり(株)
ホームページ



地域おこし協力隊の福森勇次隊員 3年間の活動成果を報告

10月18日、地域おこし協力隊の福森勇次隊員が、10月末の卒隊にあたり3年間の活動の成果を報告しました。福森隊員は、平成30年11月に協力隊員に着任。野尻地区で空き家のリノベーションや哲学対話を通じて地域コミュニティの拠点づくりに取り組みながら、地元農家のWEBサイトやPR動画などの製作支援を行いました。



福森隊員は小林市に定住し、ブルーベリー農園と養蜂に従事。観光農園を都市と地域の交流の場として活用することで、関係人口の創出を目指します

中学生が考える小林市の未来

9月30日、野尻中学校で「小林未来予想図」中間発表会が開催されました。事前にグループで話し合った、よりよい未来の小林市にするための方法を発表し、実務経験豊富な市の職員から実現可能な内容にするための具体的なアドバイスをもらいました。



手話でコミュニケーション

10月14日、野尻小学校3年のこすもす科の授業で、手話講座が開催されました。野尻手話サークルの福本誠作さんと圖師春義さんから、日常生活でよく使うあいさつや五十音の指文字を用いた自己紹介などを教わった後、手話を使って全員で合唱しました。



モニター調査として、昼食時に「すきの郷」が須木米を原料に製造した「甘酒 SŪKI SŪCRÉ」がイベント参加者に振る舞われました

小学生に試合の機会をつくりたい 笑顔と元気のサッカー大会開催

10月10日、市総合運動公園展望広場で西諸地域の小学校サッカーチームを対象に、「第1回小林レッヘルンカップ」が開催されました。新型コロナウイルスの影響で試合の機会が減った子どもたちのために企画されたもので、全8チームが参加。当日は天気にも恵まれ、久々のサッカー大会に子どもたちは笑顔でプレーしていました。

「須木栗フェア」で秋の味覚をPR

9月30日から10月3日にかけて、イオン宮崎店で、須木栗フェアが開催されました。須木地区内から5店舗が出店し、栗や特産の柚子を使用したお菓子や加工品が販売されました。来場者は目当ての商品を買い求め、各ブースは賑わいを見せていました。



高校生がオールを手に小野湖を疾走

10月16日・17日に小野湖特設会場で県高校新人ボート大会が開催され、妻高校（西都市）と高鍋高校（高鍋町）の2校が出場しました。監督や保護者が見守る中、選手たちはボートで1千円のコースを漕ぎ、日頃の練習の成果を披露しました。

